

## 2008年度(平成20年度)決算概要

学校法人千葉経済学園の2008年度決算は、2009年5月26日に開催された理事会及び評議員会において承認され、別紙各計算書のとおり確定いたしました。これらの計算書は「学校法人会計基準」に基づき厳格かつ公正・的確に計上され、作成されたもので、公認会計士による監査を受けております。

各計算書の概要は次のとおりです。

### 1. 資金収支計算書の概要

学園の教育研究活動に関連する全ての活動の収入と支出を示す「資金収支計算書」における学園全体の資金収支総額は、55億2,700万円となりました。

また、次年度繰越支払資金は14億4,500万円となっています。

予算との比較では、2009年度入学者数増加に伴う「前受金収入」の増加により、資金収入合計が4,100万円の増加となった反面、「教育研究経費支出」等の支出が全般的に減少し、資金支出合計が1億2,300万円の減少となったため、次年度繰越支払資金は1億6,500万円の増加となりました。

前年との比較では、資金収支総額が8億700万円の減少、次年度繰越支払資金が4億1,000万円の減少となっています。

資金収入のうち減少した主な科目とその要因は、学生生徒数の減少による「学生生徒等納付金収入」の減少(9,800万円)、前年度末に「なでしこ幼稚園」を閉園したことに伴う「補助金収入」の減少(1,300万円)、金融不安等を考慮し短期資金運用の有価証券運用を控えたことによる「資産売却収入」の減少(7億2,500万円)等であり、増加した主な科目とその要因は、佐久間前理事長夫人からの寄付及び附属高等学校野球部の春・夏連続甲子園出場に伴う後援募金による「寄付金収入」の増加(3,000万円)、退職者数増に伴う退職金財団収入の増加による「雑収入」の増加(1億2,500万円)並びに2009年度入学者数の増加に伴う「前受金収入」の増加(2,900万円)等となっています。

資金支出のうち減少した主な科目とその要因は、図書館雑誌の支出抑制等による「教育研究経費支出」の減少(3,000万円)、大学敷地購入資金借入金の完済による「借入金等返済支出」の減少(5,400万円)、金融不安等を考慮し短期資金運用の有価証券運用を控えたこと等による「資産運用支出」の減少(5億5,200万円)等であり、増加した主な科目とその要因は、退職者数増による退職金支出等の増加による「人件費支出」の増加(1億2,500万円)、前年度末に閉園した「なでしこ幼稚園」園舎の取壊し費用計上等に伴う「管理経費支出」の増加(2,600万円)、大学正門・広場整備の実施等による「施設関係支出」の増加(7,900万円)となっています。

### 2. 消費収支計算書の概要

学園財政の単年度における運用状況を示す「消費収支計算書」においては、帰属収入は37億7,000万円、基本金組入額は当年度に取得した固定資産、借入金返済額と前年度末に閉園となった「なでしこ幼稚園」に係る基本金取崩額との差し引きで1億3,700万円となり、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入合計は36億3,300万円となりました。また、消費支出合計は40億5,900万円となり、消費収入から消費支出を差し引いた消費支出超過額は4億2,500万円となりました。

この結果、翌年度繰越消費支出超過額は 20 億 3,800 万円となっています。

予算との比較では、全ての科目が微増となったことにより帰属収入が増加(1,400 万円)したほか、固定資産取得費用が予算を下回ったことにより基本金組入額が減少(2,500 万円)し、消費収入合計は 4,000 万円の増加となりました。

一方、消費支出は、支出の抑制等により教育研究経費等が減少となりましたが、退職給与引当金について、これまでの退職金財団に係る退職給与引当金の計上に加え、当年度から本学園退職金支給規程に基づく割増退職金に係る退職給与引当金を計上したことにより、退職給与引当金繰入額が 2 億 1,300 万円増加したため、消費支出合計は 1 億 1,500 万円の増加となりました。

その結果、消費支出超過額は 7,500 万円の増加となっています。

前年との比較では、帰属収入は、「資金収支計算書」の項で記載のとおり、学生生徒等納付金は減少しましたが、寄付金や退職者数増加に伴う退職金財団収入の増加等により、前年度と比べ 5,000 万円の増加となっており、基本金組入額も閉園となった「なでしこ幼稚園」に係る基本金取崩を行ったこと等により前年と比べ 3,500 万円の減少となったため、消費収入合計は前年と比べ 8,500 万円の増加となりました。

一方、消費支出は、前述のとおり、退職金の増加と退職給与引当金繰入額の計上による人件費増加に加え、「なでしこ幼稚園」閉園に伴う園舎取壊し費用、建物処分差額の計上等を行ったことにより、消費支出合計は前年度と比べ 3 億 1,200 万円の増加となりました。

その結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費支出超過額は前年と比べ 2 億 2,600 万円の増加となっております。

### 3. 貸借対照表の概要

平成 21 年 3 月 31 日現在における学園の財産状況を表した「貸借対照表」においては、資産総額が 178 億 6,400 万円となり、前年と比べ 1 億 9,100 万円の減少となりました。

資産の部では、固定資産が建物の減価償却等により 1 億 600 万円の減少、流動資産が現金預金の減少等により 8,400 万円の減少となっています。

負債の部では、長期借入金が返済により減少していますが、退職給与引当金の計上が増加したことにより負債の部合計は 28 億 3,300 万円となり、前年と比べ 9,600 万円の増加となりました。

その結果、自己資金(基本金+消費収支差額)は 150 億 3,000 万円となり、前年と比べ 2 億 8,800 万円減少しました。

### 4. 財務比率の状況

平成 18 年度・19 年度・20 年度における人件費比率や教育研究経費比率など消費収支計算書上の財務比率並びに固定資産構成比率や固定負債構成比率など貸借対照表上の財務比率の推移は、後掲平成 20 年度事業報告書の末尾に「財務比率表」として掲げてありますのでご参照下さい。

なお、人件費比率については悪化傾向にあります。今後その改善に取り組んでまいりながら、各種経費の節減・合理化の努力を払いながら、経営の健全化に向け努めてまいります。